

特定健診受診率向上を目指して

第1回 人吉市

特定健診・特定保健指導も平成20年度の開始から3年が経過した。1月の厚労省発表によると、21年度全国市町村国保の特定健診受診率（速報値）は31.4%で、対前年（確定値）比0.5%増にとどまっている。熊本県では組合を含む国保全体で、20年度27.8%、21年度31.6%と4%弱の増加となっている。24年度の目標値65%達成に向けては、各保険者でさらなる取り組みの強化が図られている。

それぞれの現場でどのような取り組みがなされているのかは、各保険者においても気になると思われる。そこで、少しでも参考にさせていただければと、いくつかの保険者をこのコーナーで取り上げていく。今回は人吉市の取り組みを紹介する。

特定健診、特定保健指導の実施状況

人吉市の特定健診の大まかな流れ

- ・4月にがん検診と併せて申込票を発送し、5月に回収
- ・6～7月に集団（土・日も実施）と個別で健診を実施
- ・未受診者に通知し、11月にもれ健診を実施
- ・費用は自己負担2,500円
- ・特定保健指導は今年度から直営で実施

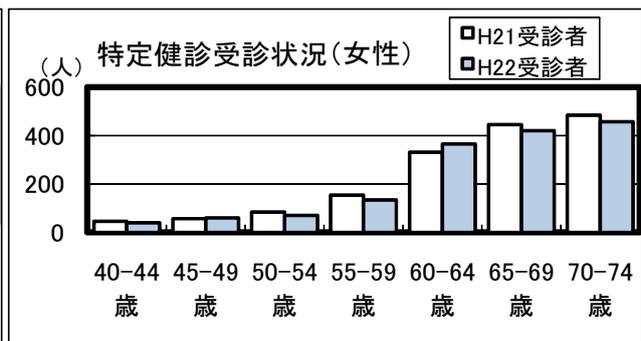
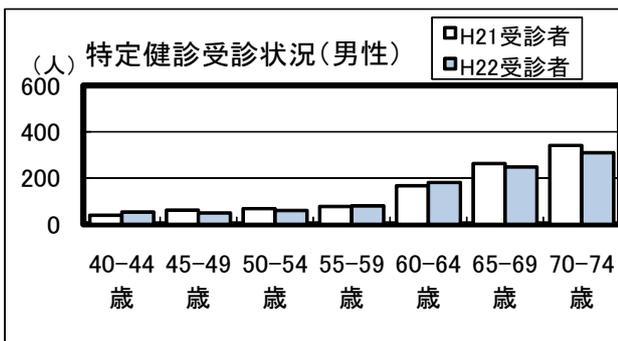
国保の状況（23年3月末）

人口 35,505人
 国保被保険者数 10,500人
 特定健診対象者数 7,473人

平成22年度特定健診受診状況（暫定値）（H23.4.11作成）

【性別・年齢別特定健診受診率】

	H21受診者			H22受診者			H21国保加入者			H22国保加入者			H21受診率			H22受診率		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
40-44歳	39	46	85	53	40	93	235	226	461	250	219	469	16.6%	20.4%	18.4%	21.2%	18.3%	19.8%
45-49歳	61	57	118	49	60	109	287	265	552	262	252	514	21.3%	21.5%	21.4%	18.7%	23.8%	21.2%
50-54歳	68	84	152	60	70	130	356	331	687	346	321	667	19.1%	25.4%	22.1%	17.3%	21.8%	19.5%
55-59歳	77	154	231	80	134	214	483	501	984	449	465	914	15.9%	30.7%	23.5%	17.8%	28.8%	23.4%
60-64歳	167	331	498	181	365	546	644	785	1,429	693	865	1,558	25.9%	42.2%	34.8%	26.1%	42.2%	35.0%
65-69歳	263	445	708	248	420	668	717	966	1,683	692	895	1,587	36.7%	46.1%	42.1%	35.8%	46.9%	42.1%
70-74歳	341	484	825	310	457	767	811	1,048	1,859	756	1,016	1,772	42.0%	46.2%	44.4%	41.0%	45.0%	43.3%
合計	1,016	1,601	2,617	981	1,546	2,527	3,533	4,122	7,655	3,448	4,033	7,481	28.8%	38.8%	34.2%	28.5%	38.3%	33.8%



※各データはH23.3.31現在のもので、受診率は人吉市国保加入者の異動等により変動する。

人吉市は、平成20年度に受診率32.9%と目標値33%をほぼ達成し、21年度も34.2%と伸ばしたが、22年度は33.8%（暫定値）と若干低下している。

年代別では、年代が上がるほど受診率が高くなっていて60代から増えている。若い世代の受診率は低く、特に40代への受診勧奨が課題となっている。

🌱 これまでの取り組みを振り返って

平成21、22年の2年間は、保健センターの業務として、特定健診説明会を町内会の総会に出向いて開催することとし、町内会長に文書で協力依頼をし、その協力を得て開催してきたが、説明が行き届かなかつたり、家族にまで情報が浸透しなかった。また、公民館での地区の集まりなどへも説明に出向いたが、対象外の高齢者や国保以外の方も多く、難しい部分があった。結果的に、明らかな受診率向上にはつながらなかった。

🌱 未受診者対策

○保健補導員の活動

昨年度策定した市の健康増進計画に基づいて、今年度新たに、保健補導員会に受診申込票の回収を依頼した。

計画では、がん検診と特定健診の申込票約30,000通を4月に郵送する。その後、町内会長が地区住民に呼びかけて、申込みを取りまとめるが、1次回収できるのは約4割と見込んでおり、未提出者については、国保・社保を問わず町内毎に名簿を作成し、それを基に保健補導員が5月に地区を回って2次回収する。

なお、回収実施にあたっては保健補導員の学習会を開いて、活動時の身分証明書の携行、名簿の持ち出し禁止、受診強制はしないことなどを厳守してもらうよう伝えている。また、回収に行った際に、「受けない」という人には理由を尋ね、「病院で治療中だから」という人には「治療中でも特定健診は受診してください」と伝えてもらうことにしている。

人吉市保健補導員会とは…

約150名が委嘱してボランティアで活動している。これまで、ウォーキング大会やウォーキングデーの参加の呼びかけや準備、運営などに取り組み、市民の運動習慣の普及に貢献してきた。その効果もあり、現在、市民の約3割がウォーキングなど何らかの運動を行っている。

○若い世代への働きかけ強化

若い世代は、忙しいこともあってか、異常を感じないと受診しない人が多い。18歳以上が対象のヤング健診でも、受診率は低い。自己負担があることも受診しない理由になっていると思うが、異常がなくてもお金を払って受診する意味をきちんと説明し、納得して受診してもらうよう取り組んでいく。

また、子育て中の母親にも未受診者が多いので、子育てサークルの研修会やPTA活動に出向いて、啓発を図っている。データの見方や身体のメカニズムを学ぶ研修会は好評で、また聴きたいとの声も聞かれている。学校保健でも養護教諭と連携を図って、早い時期から啓発していきたい。

○国保との連携

昨年度は、国の補助事業で、国保と保健センターの2人1組で未受診者を個別訪問した。40歳代を中心に約120世帯164名を回り、約15%を受診につなげることができた。

特定健診は保健衛生部門が担当で、国保とは部、課ともに異なるため、会議で連絡調整を図っている。広報は国保が受け持つなど役割分担しながら、連携して取り組んでいる。

また、国保からも特定健診関係の研修会に積極的に参加している。

○医師会との連携

60歳以上の人の約半数は治療中で、受診しない人も多い。ここを上げるためには医師会の協力が欠かせず、球磨郡市の保健師会として管内の医師会に協力をお願いしている。具体的には、病院に「特定健診は生活習慣病を見つけるための健診です」「治療中の人も受けてください」という趣旨のチラシを置いたり、ポスターを貼らせてもらっている。

また、治療中の人は「検査ならいつも病院で受けている」という感覚を持っているが、年に1度は治療のためでなく、健診という形での受診を勧めてもらうようお願いしている。

生活習慣病予防は医療だけではできない。行政の制度（特定健診）を利用してもらうとともに、治療効果を上げるために保健師・栄養士も活用してもらいたいと考えている。

🌿2次健診を実施して

人吉市は、国保連合会のモデル事業（平成19～22年度）で2次健診を実施し、75g糖負荷とインシュリン、頸部エコー、尿アルブミンの各検査を、延べ100人以上に行った。

特定健診では空腹時血糖を測定するが、2次健診では75g糖負荷検査により食後高血糖を初期段階で見つけることができた。また、頸部エコー検査により動脈硬化の進行状況が本人にも理解してもらえた。このように2次健診を行ったことで、生活習慣改善の必要性を受け入れてもらいやすくなり、保健指導への導入面で有効だった。

モデル事業は終了したが、糖負荷検査は今年度も予算計上し、動機付支援の方に実施する。いずれは頸部エコーも実施していきたいと考えている。

今後は、医療機関との情報のやりとりや、本人を含めての情報共有を図りながら、本人が自力でやっていけるように継続して支援することが重要になる。

🌿データの活用

現在、健診データとレセプトデータから、腎機能低下や重症高血圧、糖尿病、合併症の人など約200人をリストアップして、緊急訪問している。薬での治療だけでなく、食事・運動も必要となるので、生活改善するための資料を持参し説明している。

自覚症状がない病気の怖さや、重症化すると治療に多額の医療費がかかることを市民にどう伝えていくか難しい問題であるが、少しずつ取り組んでいこうと考えている。

🗣️担当者からひとこと

特定健診受診率向上については、平成20年度から取り組んでおりますが、有効な手立てがなく、どうしても、担当部局だけの取り組みになっていたように思います。

国が掲げる受診率目標の達成年度（平成24年度）まで残り1年のタイムリミットを迎え、全庁的に全市的に考え、今年は地域力を生かし、広く市民へデータを示しながら、市民自らが考え、行動することができるように、多くの機会を積極的に捉えていきたいと考えております。

担当者の本気が大事！！